

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

## スポーツ大会終了

先月の「体育の日」に実施した大代地区スポーツ大会には、来賓の皆様はじめ多数御参加いただき誠にありがとうございました。

お陰様でスポーツするには心地良い天候に恵まれて、大代地区の約三百五十名という大勢の方々に参加していただき、熱戦の結果「大代南」が優勝、「大代東」が準優勝いたしました。

その後、全員で芋煮会を催し、盛会のうちに無事終了いたしました。これもひとえに皆様の御協力の賜物と心より感謝いたしております。

今後共、子ども会育成会の活動に対し御指導御鞭撻くださいますようお願い申し上げます。

最後に、各育成会会長はじめ役員の方々には大変御苦勞をおかけいたしました。厚く御礼申し上げます。

大代地区子ども会育成連合会  
会長 川村清二

## 無火災の願い

昨年の十二月ふれあい第一〇五号に消防からの「お願い」ということで、お願いやらお知らせを載せてからもう一年になりました。

平成七年一月～十二月までの間、津波注意や警報併せて四回も出勤しています。平成七年一月早々阪神大震災がありました、やはり地域の方達の助

御祝儀 お見舞いは

三千円を限度にお返し物はしないようにお互い気を配りましょう

あいさつは心のふれあい あいさつは心も救われました。 け合いによって人命も救われました。 国中災害の恐ろしさに震えました。 このことを大きな教訓として大代地区としても、多賀城市の方から小野屋の屋上と火の見やぐらの上に防災広報装置を付けていただき、六月九日に市役所の生活環境課から三人の派遣があって説明をもらいました。その結果、緊急の場合は市役所と消防署から直接広報される仕組みになりましたので聞き逃しのないように御注意願います。

## 豊かな社会が自立を妨げる

豊かな社会が自立を妨げる

日本の親の子供への愛情のこまやかさと徹底した献身ぶりがアメリカ人は印象的のようだ。戦前のような貧しい社会では、子供は親のそうした献身があつてこそ健全に育つたに違いない。

しかし、現在の豊かな社会では、そうした親の献身は子供の成長を阻害する要因になりかねない。貧しかった時代には、親は子供に物を与えたくても与えることができなかった。だから乏しさを分かち合い、我慢しても子供に与えるといった親心が意味をもっていた。今のような豊かな時代では、与えることは簡単になったが、ただ与えるだけでは子供の成長を妨げる恐れが強くなった。

現代の親の我慢のしどころは「与えるのを我慢する」ことにある。「与えたくても与えない」ことが実は立派な驕になるのである。自主性を身につけさせ自立させたいのなら、親は子供のできることを代わりにやってはならぬ。

身のまわりのことは自分でさせる。さらに、家事など手伝いもできるだけやらせる。手伝いは親のためでなく、本人の自立のためにさせるとい意識を持つことが大切だ。せいたくに慣れさせないために、質素な生活をさせて欠乏に耐える強い心を作るように工夫する。子育てには、そうした親の知恵と強い意志が必要でなからうか。

第六分団長 柴 静夫



## 「川柳」

いまもなお父の生きてる軍事便

孫かへり淋し涼しと虫の声 佐藤秀子

呼び塩の丁度よい味友が来る 高橋 操

ドンブリにたっぷりもった芋煮会 本郷ひさ

台風の去って実りの秋日和 鈴木絹子

長命も悲喜が交わるリハビリ棟 阿部うめよ

紅葉に夏を閉まいて山の色 星 繁子

工藤伊代

# わが町

## ウオッチング

高年齢になると、よく足腰から弱味がやってくるといわれているので、私も年齢相応に一日一万二千歩を目標に早朝の散歩から一日が始まる。途中真っ赤に昇る朝日を拝しながらすがすがしい空気を腹いっぱい吸う気持ちは何ともいえない味わいのあるものである。そのとある一日、大代町内のウオッチングとシヤレてみた。

先ず町内を貫流する砂押川に架けられていた念仏橋をスタートし、産業道路をすぐ右に入ると、入口に『県立都市公園仙台港多賀城地区緩衝緑地』五十二年四月一日開園と記された石碑が目にとまる。公園に入ると最初の駐車場脇に西原遺跡、テニスコート東隣りに元舟場遺跡が、また貞山堀に架けられていた貞園橋を渡り、東側駐車場近くには大代遺跡の標柱が多賀城市教育委員会により平成五年三月十五日立てられて、公園造成時の出土品からそれぞれが由来が記されている。

公園駐車場入口から県道富田線をはさんで北側には大代横穴古墳群の標柱が立てられ、現在でもその横穴の現況が保存されている。

また柏木神社東側の住宅地に囲まれた小高い丘に柏木遺跡があり、立札にその由来が記されている。

大代地域の氏神様として氏子から崇

敬されている柏木神社の境内には、神社の沿革を刻んだ石碑が立てられて神社建立にまつわる先人の労苦を伝えている。

神社をあとに中峯を過ぎ中峯橋を渡ると橋下の右岸に陶板レリーフ七枚の大壁画が色鮮やかに刻まれており、産業道路脇には貞山堀の由来と藩政時代における当時の物資輸送の大動脈の経緯を詳しく記した大看板が立てられている。

多賀城市は歴史のまちとして古くから知られている遺跡が数多い中にわが町内にも、このようにいろいろな遺跡等が存在していることを改めて目で確かめることができたのも一日ウオッチングの成果であったと自己満足している。

大代西 佐藤甚六

## キナバル山に登って

「エーあの山に登れるの、本当に登るの」車窓からの山の威容さに会員の一声である。今回の計画は会の記念事業で、宮城の屏風岳、東北の燧ヶ岳、富士山と、それぞれに一番高い山に登った後の東南アジアの最高峰四千百一メートルのキナバル山である。

ツアーリーダーと現地のガイド二名、ポーター六名それに会員十三名、ここは赤道直下ボルネオ島北東部マレーシア領。空路シンガポール経由ボルネオ

島コタキナバル市へ、その後バスで四時間の登山基地に。満天の星空の下口ツジに泊まり、登山手続を行いポーターに荷を分散緑深いジャングルの中、良く整備された登山道を登ること七時間三千三百メートルの山小屋に。

そして今日は頂上をめざす日、五時三十分出発、岩に手摺りのついた梯子段が続く。しかし雲一つなく風もないすばらしい天気、岩峰群の切り立つ壁、岩の一枚板を登ること四時間三十分全員登頂、眺めも最高。スコールにも合わず苦勞の甲斐があった。眺めを前に焼き付け記念写真を撮って小屋に下山。小屋の中はいろいろな国の人が出入りしています。四人部屋のベッド、水洗トイレ、シャワーも整い食事も満足できる中華料理などなど。入山許可は小屋のベッドが空くまで待つこととなる。ガイドは登山者の食事の後始末や落ちていたゴミを拾い、登山者が部屋を出た後に部屋を周りゴミを集めるなど徹底している。外国人の多い山での常識なのかもしれない。

どこかの国の一番高い山では客引きが行われ、詰まるだけ詰められ食事はインスタント食品、頂上で牛乳六百元、ゴミの山、トイレは入った人のみ知る汚れ、その違いは驚くばかり、登山する一人ひとりの心配りの違いを思いしらされる。でも三日間一緒にガイドとポーターの八人、安い料金ながらも私達のペースに合わせ、いつも笑顔

で接してくれた素朴さのもつ現地の人達を思う一週間の登山でした。

大代東 三浦徳男



## 「短歌」

大代中 櫻井陽子

旅立ちには順番だよという老母に夜叉になるまで生きてと願う

「いいのよ」と言ってもその手に力こめ五十の私に小使いくれる

もう一度生まれて来てもあっさりとおれらの母になるといふ老母

若き日に着たという帯紫の色鮮かに老母よみがえる